

■建設時の背景や現色相塗替え時のレビューと現在ある各種計画が目指す方向性

◎建設時の背景等

- ・復興のシンボルとしてアーチ系構造を選定。
- ・地形や地質条件に最適な構造を選定した結果、「橋の展覧会」と呼ばれるほど多様な形状が出現。
- ・隅田川橋梁では、淡灰色・黒味を増した灰色・青灰色・濃い青灰色など灰色系の色彩を用いた。
- ・隣り合う橋梁には同じ色を用いていない。

◎現色相塗替え時の方針（隅田川著名橋景観デザイン検討委員会 S59）

- ・地域特性や橋の個性から、ふさわしい色相を決定。日本の伝統的な色を使い、落ち着いた色彩で統一を図る。
- ・上路橋では、地味な色を用いると橋が目立たなくなることから、赤系と黄系。⇒吾妻橋・蔵前橋
- ・緊張感あるひきしまった形態で、プロポーションの整った橋には、青系。⇒駒形橋
- ・親しみやすく柔和な形態には、緑系。⇒厩橋
- ・ランドマークや景観の対象となるものは、浮出す方法で環境との調和を図る白系。⇒白鬚橋

◎各種計画が目指す方向性

東京都景観計画（隅田川景観基本軸）(H23.4)	隅田川ルネサンス(H23～)	新たな水辺整備のあり方(H26.2)
<ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい文化や歴史的建造物を生かす ・水辺と周辺景観との調和 ・橋は、重要な観光資源、街のランドマークとして生かす ・品格ある景観形成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸の華であった隅田川のにぎわいを現代に生まれ変わらせ、新たな水と緑の都市文化を未来につなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・人々が集い、にぎわいが生まれる水辺空間の創出 ・浅草と東京スカイツリーを結ぶにぎわいの水辺 ・歴史・文化が息づく両国エリア

基本理念

これまでの色を再検証した上で、
地域の歴史・風土を活かし、橋の品格や個性が感じられる色彩とする
～橋の多様な構造と色彩によって、隅田川の美しい景観を創出する～

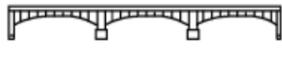
基本方針

- 1) 橋ごとの個性を活かした色彩
- 2) 地域に慣れ親しまれている色彩
- 3) 地域の歴史・風土を活かした色彩
- 4) 品格ある落ち着いた色彩(彩度を抑えた色彩)
- 5) 橋の歴史を未来に伝えていく色彩

隅田川中流部著名橋色彩検討委員会

◆平成 26 年度～平成 27 年度（計3回開催）

- 【委員】 ● 伊東 孝（産業考古学会会長・元日本大学教授）
● 福井 恒明（法政大学教授 デザイン工学部都市環境デザイン科）
● 吉田 慎悟（武蔵野美術大学教授 造形学部基礎デザイン学科）
● 中村 一史（首都大学東京准教授 都市環境学部都市環境学科）
● 大沢 昌玄（日本大学准教授 理工学部土木工学科）
● 杉山 朗子（㈱日本カラーデザイン研究所 環境事業部景観事業部長）

	白鬚橋（東京府架設）	吾妻橋（東京市架設）	駒形橋（復興局架設）	厩橋（東京市架設）	蔵前橋（復興局架設）
	下路式ブレースドリブタイドアーチ 	上路式ソリッドリブアーチ 	中路上式及び上路式ソリッドリブアーチ 	下路式ソリッドリブタイドアーチ 	上路式ソリッドリブアーチ 
歴史・特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ・隅田川最古の「橋場の渡し」 ・1914(T3) 木橋架設 ・1931(S6) 都市計画事業で架け替え ・名称は、東岸にある旧寺島村の鎮守「白鬚神社」の名に由来している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代「竹町の渡し」 ・1774(安永3) 木橋架設（江戸期隅田川最後の橋） ・1887(M20) 隅田川初となる鉄橋（トラス）架設 ・1931(S6) 震災復興事業で架け替え ・名称は、江戸の東にあるため東（あずま）橋、向島の吾嬬神社へと続くなどの説がある。明治時代に西洋式木橋架設を期に「吾妻橋」となる。 ・江戸の頃より、人々が集い、賑わいのある地域。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代「駒形の渡し」 ・1927(S2) 震災復興事業で新設 ・名称は、公募により決定。橋詰にあった駒形堂にちなみ命名。 ・駒形堂は庶民から親しまれた江戸で名高いお堂で、葛飾北斎は屋根を青色に描いている。 ・江戸の頃より駒形の渡しがあり、交通の要所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代「御厩河岸の渡し」 ・1874(M7) 木橋架設 ・1893(M26) 鉄橋（トラス）架設 ・1929(S4) 震災復興事業で架け替え ・名称は、西岸にあった御厩河岸（蔵前の米蔵の荷駄馬用の厩）に由来する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代「富士見の渡し」「御蔵の渡し」 ・1927(S2) 震災復興事業で新設 ・名称は、公募により決定。江戸時代に幕府の米蔵（浅草御蔵）があったことで命名。対岸にも本所御蔵があり、両岸を渡る「御蔵の渡し」があった。
周辺の特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョギングや散歩を楽しむ人が多い。 ・上流側の護岸は、緩傾斜で整備され、緑豊かな環境が広がっている。周辺には高層の建築物も少なく、開放された空間となっている。 ・周辺環境色に、樹木の黄緑系と、建物の明るいオフニュートラル系が多くを占める。右岸の薄青緑のガスホルダーが目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浅草寺と東京スカイツリーを結ぶ中心に位置し、国内外の多くの観光客が集い、賑わいや活気がある。 ・右岸には江戸東京の下町、浅草が、左岸には特徴的な景観の近代的なビルが立ち並び。 ・周辺環境色に、ベージュの他、煉瓦タイルなどのブラウンも多く、さらに色みの強い建物もみられる。浅草寺につづく赤系が印象的。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上野から続くシンボルロードの延長で、橋の両岸には幹線道路の交差点がある交通の要所。 ・右岸の浅草側には老舗の料理屋が軒を連ね、のれんに藍色を使用するなど江戸の情緒を今に伝えている。 ・周辺環境色に、ベージュ、明るいオフニュートラル系、ブラウンの建物が多い。部分的に青色に塗られた建物も出現 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺にはオフィスビルとマンションなどが建ち並び、商業・住宅地区である。 ・両岸のテラスには、緑の多い親水公園などがあり、駒形から蔵前につづく憩いの入-スとなっている。 ・周辺環境色に、明るいオフニュートラル系の建物が半数を占めるが、ベージュ、ブラウンの建物もあり、蔵前橋周辺より色みがある。樹木の緑がアクセント。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左岸には、旧安田庭園や本所御蔵跡にある横網町公園（大火に耐えた銀杏並木）や江戸東京博物館等歴史や文化を伝える施設がある。 ・右岸には、NTT や下水道、警察署など公共性の高い施設があるとともに都内最大級の千貫神輿で有名な鳥越神社がある。 ・周辺環境色に、色みを抑えた明るいオフニュートラル系の建物がメイン。右岸の控えめな色の中高層建物の中、鈍いピンクのポンプ場が目目を引く。
基本色 【最終案】					